

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000074		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター江別(ななかまど)		
所在地	江別市緑町西1丁目110-1		
自己評価作成日	平成25年1月21日	評価結果市町村受理日	平成25年2月8日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0191000074-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成25年2月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

春から秋にかけてはできるだけ毎日散歩や外気浴をしていただいたり、パーベークウなども頻繁に取り入れ、ホーム外に出るように力を入れています。冬季間も外出レクなどで気分転換をはかっていただくようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<地域資源との協働>
 地域の人々や家族等を対象に一人ひとりの暮らしを支えている地域の訪問看護師による看護に関する役割や対応、薬剤師による薬の効能やジェネリック薬品の必要性、歯科医師による口腔ケアや義歯の説明等を運営推進会議や講座の開催で広報する取り組みをしていると共に認知症に対する理解や広報に努めている。

<戸外に出かけられる機会の確保>
 一人ひとりのその日の希望にそって、保育園の発表会や小学校の運動会見物、カラオケ店やファミリーレストランでの喫茶、円山動物園訪問やショッピングセンターでの買い物など普段では行けないような場所でも出かけられるように支援している。また、気分転換での散歩や自宅への帰宅支援も行っている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)				項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成し、「地域と共に永く」という文言をいれ地域密着型として理念を確立している。職員は朝、夕、唱和することにより周知徹底し、支援を心がけている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくりあげ、朝・夕唱和して理念を共有し、実践につなげている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方へ日常的に挨拶をし、町内会や地域の保育園への行事ごとに招待していただいている。又、学校との交流がもてるように今年度からリングブルやペットボトルの回収を行い提供していけるようにしている。	清掃活動や廃品回収等の町内会行事の参加・協力や事業所主催のニチイ祭りの開催案内で参加を呼び掛けたり、ヘルパー実習生や傾聴・民謡等ボランティアの受け入れで地元の人々との交流に努めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に加入し会館などの清掃作業に参加している。町内会一斉ごみ拾いの回覧がきた時などは入居者と一緒にホーム周りの清掃をしている。			
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、家族、包括支援センター職員、民生委員などの参加を得て現状報告した後、ご意見を頂きサービスの向上に活かしている。又、今年度は外部の方の協力を得、いろいろな話しをしていただきました。	運営推進会議を2ヶ月毎に定期的開催し、外部講師を招聘して認知症ケアに関する講座の開催や地域との連携等について具体的に話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回、地域包括支援センター職員の運営推進会議への参加をしていただいている。江別市には入居状況を1ヶ月に一度報告して、必要に応じて管理者が市の担当者に連絡をとっている。	市担当者や包括支援センター職員との連携の重要性を認識し、入居状況の報告や日常業務を通じて連携を深めるように努めている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修で拘束についての研修をしたりして、拘束をしないケアに努めている。ご家族から拘束についての話があった場合は拘束しないケアにご理解していただけるように説明を行っている。玄関の施錠は20:00～7:00までとしている。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を法人内研修や内部研修を通じて正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを整備し、虐待をしない取り組みをしている。又、虐待防止スローガンを職員が見える位置に掲示して虐待防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、入居者の中で必要な方はいないが一昨年に市内グループホーム主催で行った認知症講座で成年後見制度について管理者や職員が参加して、他職員にも伝達し情報を共有している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結の際は項目ごとに内容を説明している。又、疑問点には十分な説明を行い理解、納得した上で同意を得ている。改定があった場合には個別に説明をして同意を得ている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や担当者会議で意見をいただいたり、ホーム内や社内に苦情窓口を設けている。要望等はカンファレンスや申し送りなどで伝達し運営に反映している。	家族会開催で意見や要望等の話し合いや法人独自のアンケートの実施、意見等を言い表せるように苦情等の受付箱を設置している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営推進会議で意見を聞いたりホーム内や社内に苦情窓口を設けている。ホーム内に意見箱を設置したり、全社一斉に顧客満足度のアンケートをおこなっている。	ミーティングやモニタリング、日常業務等を通じて意見や提案を受け付ける機会を設け、運営に反映できるように努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	ケアスタッフのキャリアアップ試験など、目標をもって働けるような取り組みを行っている。又、職員の意見や提案を話し易いように年2回以上の個別の面談を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内の研修を受ける機会の確保や毎月、ホーム会議などで年間の研修計画に添って研修を行っている。社外の研修についても研修案内を行いスキルアップできる機会を提供している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者はグループホームの管理者会議に定期的に参加して情報の共有に努めている。又、職員も市内グループホーム交流会などの推進委員になり企画、運営を他ホームの職員とおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談を行い、アセスメントをしっかり行いご本人が安心して過ごしていただけるようにしている。入居後も不安や困っていることがないように傾聴している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から困っている事や不安なこと、要望を伺っている。入居後も安心して生活ができるように連絡を密にとりながら不安などを早期に解決できるように支援している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、必要な支援を見極め、優先順位の高いものを支援の中心と捉え、支援内容を検討し介護計画をたて実施している。訪問理容や歯科もご本人と家族と相談の上、必要に応じ取りいれている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を手伝っていただいたり、パーベキューの準備を行うなど喜怒哀楽を共有し合えるように心かけている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ニチイ祭りや外出レクなどの行事にご家族に参加していただき、ご本人と家族が関われる機会を作っている。又、ご本人と散歩や食事介助等、本人、家族の要望に合わせて行っていたいっている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の来訪があったときは継続できるように支援している。又、馴染みの美容院や理容院に継続利用できるように支援している。	自宅への帰宅や美容室・理容室訪問、散歩や買い物等で馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、座る位置などに配慮して良い関係が築けるように努めている。又、レクレーションや外出の時間を設け、交流できる機会をつくっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じて相談や連絡がとれる体制をとっている。			
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から生活歴を聞きその方にとっての暮らしやすさを考慮し、支援内容を検討している。言葉で思いや希望を表現できない方には表情や動作から重いを汲み取るように努めている。	センター方式を活用して、一人ひとりの生活歴の把握や家族会での話し合い等で本人・家族の希望や意向の把握に努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後、ご家族にセンター方式の記入をお願いし、生活歴や生活環境の把握に努めている。入居後もご本人や家族から伺った情報を追記している。			
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時に管理日誌の確認を行うと共に朝、夕の申し送り職員が情報共有し現状の把握に努めている。又、1日2回のバイタルチェックをし体調に変化がないか観察している。			
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者が本人、職員にモニタリングを行い、意見をとりまとめてうえでカンファレンスにて課題と支援内容について話し合いを行っている。担当者会議にはご家族にできるだけ参加して頂き、ご家族の意向を伺い現状に即した介護計画を作成している。	担当者会議に家族の参加を呼びかけたり、カンファレンスで職員の意見やアイデアを話し合い、現状に即した介護計画を作成している。また、介護記録を整備している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践などは個別記録に記録し職員間で共有している。状態の変化があった場合は都度、カンファレンスを行い、介護計画の見直しに活かしている。			
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護師、往診医などに対応策を相談すると共に、ご本人やご家族の希望がある場合は訪問マッサージなども取り入れニーズに合わせ柔軟な支援やサービスが提供できるように心がけている。			
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティア、民謡ボランティア、ホームに係りの方のボランティアの紹介などの協力を得ながら入居者が楽しく過ごす事ができるように支援している。又、消防の協力を頂き避難訓練を実施し安全に生活できるように支援している。			
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を確認し、二週間毎に提携病院の往診を受けている。受診内容は「健康管理記録」に記載し、家族に報告している。緊急時はかかりつけ医に連絡、相談し早急に適切な医療を受けられるように支援している。	医師や訪問看護との連携で適切な医療を受けられるように支援している。また、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護師に来ていただいております。前日には1週間の入居者の方の情報提供をし、処置や看護をしていただいております。訪問時以外でも電話対応などでアドバイスや相談を受けています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を提供したり、早期に退院できるように受け入れ体勢などの情報交換をしている。又、退院時にはご本人の心身の状態などの情報をいただき、退院後の留意点などを確認相談している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」を家族に説明し、同意書を取り交わしている。又、その際事業所でできる対応の範囲を伝えて、できるだけ早い段階で医療と連携しチームでの支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら指針を職員間で共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルに添って迅速な対応に努めている。又、救急搬送のときには消防隊との情報共有が迅速にできるように入居者状況一覧表を作成している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の昼間と夜間を想定した避難訓練を消防署の協力のもと行っている。訓練は近隣の方にもお知らせして職員はどちらか必ず訓練に参加している。又、非常食の備蓄やランタンや防災グッズも用意している。	年2回の火災避難訓練の実施や自主避難訓練を実施している。また、スプリンクラーや報知器、通報装置等の設備の定期点検を実施している。	今後は、救急救命(AEDの使用方法)の定期的実施や地震・水害等の防災に備えた避難・誘導方法を検討しているので、その実践に期待しています。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りを大切に言葉かけや対応に配慮している。気になる言葉かけなどは都度、注意してカンファレンスなどで確認するようにしている。	法人内及び事業所内研修を通じて、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し自己決定ができるように声かけを行っている。入浴やレクリエーションの参加なども本人の希望を聞いている。飲み物なども本人の嗜好にあわせて提供している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に、入浴なども希望があれば毎日入れるように支援したり、散歩の支援などもその方のペースにあわせて支援するように心かけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服を自分で選んだり、お化粧品などおしゃれを楽しめるように支援している。定期的に訪問美容師が来訪して散髪をして、身だしなみに気をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下準備や、片付けを一緒に行い献立づくりの際は入居者の希望や季節の食材を取り入れて作成している。又、職員も一緒に食事をとり会話しながら楽しい環境づくりに配慮している。	食事が楽しみなものになるよう、献立委員会で一人ひとりの嗜好の把握を行い、調理の下ごしらえや準備を職員と一緒にやっている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮した献立づくりを心がけており、チェック表を利用し食事量や水分量がわかるようにしている。その方の状態に合わせ刻み食やミキサー食を提供し、食事量の低下がある場合は医師と連携をはかり代替品などの支援をしている。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの誘導をしている。自力でケアができない方には介助しており、口腔内や歯、義歯に問題がある場合は本人、家族に確認して訪問歯科の往診を受けて治療や口腔ケアをしていただいている。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分、排泄のチェック表を利用して、その方の排泄パターンに合わせ声掛けしトイレ誘導を行い、トイレでの排泄や排泄にむけて支援をしている。	一人ひとりの力や排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレで排泄できるように自立にむけた支援を行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確保に努め、食事の献立作成時には繊維質の多い食材を取り入れたりしている。又、体操や歩行運動を促し便秘の予防に努めている。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、入浴ができる体制を整え、時間や湯加減などは入居者の希望を取り入れ週2,3回の入浴を実施している。又、入浴剤をいれたりリフレッシュしていただいている。	拒否の強い利用者にも対応した支援が行われている。また、一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて週2～3回を目安に入浴支援をしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣に合わせて、過ごしていただいたり、その時々体調や疲労感に応じて休息を促すようにしている。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容説明書は個人ファイルに保管し、変更があった場合は申し送りなどで職員が情報共有し、服薬時は二重チェックを行い飲み込み確認まで行っている。又、服薬後の飲み忘れの確認も行っている			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝いなど日々の生活に張り合いを持っていただき、毎日レクリエーションを実施し楽しい時間を過ごしていただいたり、買い物支援をしたりしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は毎日散歩の支援をしている。又、保育園の発表会、小学校の運動会、パークゴルフ大会や盆踊りなどの外出行事などを楽しんでいただいている。今年度は家族も参加し動物園にも行きました。	一人ひとりのその日の希望にそって、保育園の発表会や小学校の運動会見物、カラオケ店やファミリーレストランでの喫茶、円山動物園訪問やショッピングセンターでの買い物など普段では行けないような場所でも出かけられるように支援している。また、気分転換での散歩や自宅への帰宅支援も行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に本人、家族に説明し事故のないように必要時以外は金庫に保管としている。使用する際は見守りしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の取次ぎや手紙のやりとりができるように支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室と脱衣所は入浴直後も温度差がないように配慮し、居間や廊下なども明るさや清潔保持を保つようにしている。壁には季節感を感じられるように装飾したり、花なども定期的に飾っている。	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮している。また、季節毎の飾りつけや椅子・ソファ等の配置で、本人が居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では気の合う入居者同士が会話などを話せるように座席の位置などを考慮して配慮している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には馴染みのタンスや鏡台、装飾品を持参していただき心地良い居室となるようにご家族の方にお話して協力していただいている。	居室には、使い慣れた家具や鏡台等が持ち込まれ本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時計やカレンダーを目につきやすい場所へ設置し、廊下やトイレ、浴室には手摺を設置しその方の安全かつ自立した生活が送れるようにしえんしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000074		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター江別(しらかば)		
所在地	江別市緑町西1丁目110-1		
自己評価作成日	平成25年1月21日	評価結果市町村受理日	平成25年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月行事を計画して季節感を楽しんでいただいたり、装飾品なども一緒に作成して自分の役割をもつことで日々の生活に活気をもっていただいています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0191000074-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成25年2月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成し、「地域と共に永く」という文言をいれ地域密着型として理念を確立している。職員は朝、夕、唱和することにより周知徹底し、支援を心がけている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方へ日常的に挨拶をし、町内会や地域の保育園への行事ごと		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に加入し会館などの清掃作業に参加している。町内会一斉ごみ拾いの回覧がきた時などは入居者と一緒にホーム周りの清掃をしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二ヵ月毎に開催し、家族、包括支援センター職員、民生委員などの参加を得て現状報告した後、ご意見を頂きサービスの向上に活かしている。又、今年度は外部の方の協力を得、いろいろな話しをしていただきました。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回、地域包括支援センター職員の運営推進会議への参加をいただいている。江別市には入居状況を1ヶ月に一度報告して、必要に応じて管理者が市の担当者に連絡をとっている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修で拘束についての研修をしたりして、拘束をしないケアに努めている。ご家族から拘束についての話があった場合は拘束しないケアにご理解していただけるように説明を行っている。玄関の施錠は20:00～7:00までとしている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを整備し、虐待をしない取り組みをしている。又、虐待防止スローガンを職員が見える位置に掲示して虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、入居者の中で必要な方はいないが一昨年に市内グループホーム主催で行った認知症講座で成年後見制度について管理者や職員が参加して、他職員にも伝達し情報を共有している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は項目ごとに内容を説明している。又、疑問点には十分な説明を行い理解、納得した上で同意を得ている。改定があった場合には個別に説明をして同意を得ている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や担当者会議で意見をいただいたり、ホーム内や社内に苦情窓口を設けている。要望等はカンファレンスや申し送りなどで伝達し運営に反映している。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議で意見を聞いたりホーム内や社内に苦情窓口を設けている。ホーム内に意見箱を設置したり、全社一斉に顧客まんぞく		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ケアスタッフのキャリアアップ試験など、目標をもって働けるような取り組みを行っている。又、職員の意見や提案を話しやすいように年2回以上の個別の面談を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修を受ける機会の確保や毎月、ホーム会議などで年間の研修計画に添って研修を行っている。社外の研修についても研修案内を行いスキルアップできる機会を提供している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホームの管理者会議に定期的に参加して情報の共有に努めている。又、職員も市内グループホーム交流会などの推進委員になり企画、運営を他ホームの職員とおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談を行い、アセスメントをしっかり行いご本人が安心して過ごしていただけるようにしている。入居後も不安や困っていることがないように傾聴している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から困っている事や不安なこと、要望を伺っている。入居後も安心して生活ができるように連絡を密にとりながら不安などを早期に解決できるように支援している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、必要な支援を見極め、優先順位の高いものを支援の中心と捉え、支援内容を検討し介護計画をたて実施している。訪問理容や歯科もご本人と家族と相談の上、必要に応じ取りいれている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を手伝っていただいたり、ホームの周りの清掃や畑づくりを一緒にしたり、バーベキューの準備を行うなど喜怒哀楽を共有し合えるように心かけている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ニチイ祭りや外出レクなどの行事にご家族に参加していただき、ご本人と家族が関われる機会を作っている。又、ご本人と散歩や食事介助等、本人、家族の要望に合わせて行っていたいっている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の来訪があったときは継続できるように支援している。又、馴染みの美容院や理容院に継続利用できるように支援している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、座る位置などに配慮して良い関係が築けるように努めている。又、レクリエーションや外出の時間を設け、交流できる機会をつくっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も関係者から状況をきくなどしており、必要に応じて相談や連絡がとれる体制をとっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から生活暦を聞きその方にとっての暮らしやすさを考慮し、支援内容を検討している。言葉で思いや希望を表現できない方には表情や動作から重いを汲み取るように努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後、ご家族にセンター方式の記入をお願いし、生活歴や生活環境の把握に努めている。入居後もご本人や家族から伺った情報を追記している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時に管理日誌の確認を行うと共に朝、夕の申し送り職員が情報共有し現状の把握に努めている。又、1日2回のバイタルチェックをし体調に変化がないか観察している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者が本人、職員にモニタリングを行い、意見をとりまとめてうえでカンファレンスにて課題と支援内容について話し合いを行っている。担当者会議にはご家族にできるだけ参加して頂き、ご家族の意向を伺い現状に即した介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践などは個別記録に記録し職員間で共有している。状態の変化があった場合は都度、カンファレンスを行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護師、往診医などに対応策を相談すると共に、ご本人やご家族の希望がある場合は訪問マッサージなども取り入れニーズに合わせ柔軟な支援やサービスが提供できるように心がけている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティア、民謡ボランティア、ホームに係りの方のボランティアの紹介などの協力を得ながら入居者が楽しく過ごす事ができるように支援している。又、消防の協力を頂き避難訓練を実施し安全に生活できるように支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を確認し、二週間毎に提携病院の往診を受けている。受診内容は「健康管理記録」に記載し、家族に報告している。緊急時はかかりつけ医に連絡、相談し早急に適切な医療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護師に来ていただいております。前日には1週間の入居者の方の情報提供をし、処置や看護をしていただいている。訪問時以外でも電話対応などでアドバイスや相談を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を提供したり、早期に退院できるように受け入れ体勢などの情報交換をしている。又、退院時にはご本人の心身の状態などの情報をいただき、退院後の留意点などを確認相談している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」を家族に説明し、同意書を取り交わしている。又、その際事業所のできる対応の範囲を伝えて、できるだけ早い段階で医療と連携しチームでの支援に取り組んでいる。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルに添って迅速な対応に努めている。又、救急搬送のときには消防隊との情報共有が迅速にできるように入居者状況一覧表を作成している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の昼間と夜間を想定した非難訓練を消防署の協力のもと行っている。訓練は近隣の方にもお知らせして職員はどちらか必ず訓練に参加している。又、非常食の備蓄やランタンや防災グッズも用意している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りを大切に言葉かけや対応に配慮している。気になる言葉かけなどは都度、注意してカンファレンスなどで確認するようにしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し自己決定ができるように声かけを行っている。入浴やレクリエーションの参加なども本人の希望を聞いている。飲み物なども本人の嗜好にあわせて提供している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に、入浴なども希望があれば毎日入れるように支援したり、散歩の支援などもその方のペースにあわせて支援するように心かけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服を自分で選んだり、お化粧品などおしゃれを楽しめるように支援している。定期的に訪問美容師が来訪して散髪をして、身だしなみに気をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下準備や、片付けを一緒に行い献立づくりの際は入居者の希望や季節の食材を取り入れて作成している。又、職員も一緒に食事をとり会話しながら楽しい環境づくりに配慮している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮した献立づくりを心がけており、チェック表を利用し食事量や水分量がわかるようにしている。その方の状態に合わせ刻み食やミキサー食を提供し、食事量の低下がある場合は医師と連携をはかり代替品などの支援をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの誘導をしている。自力でケアができない方には介助しており、口腔内や歯、義歯に問題がある場合は本人、家族に確認して訪問歯科の往診を受けて治療や口腔ケアをしていただいている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分、排泄のチェック表を利用して、その方の排泄パターンに合わせ声掛けしトイレ誘導を行い、トイレでの排泄や排泄にむけて支援をしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確保に努め、食事の献立作成時には繊維質の多い食材を取り入れたりしている。又、体操や歩行運動を促し便秘の予防に努めている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、入浴ができる体制を整え、時間や湯加減などは入居者の希望を取り入れ週2.3回の入浴を実施している。又、入浴剤をいれたりリフレッシュしていただいている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣に合わせて、過ごしていただいたり、その時々体調や疲労感に応じて休息を促すようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容説明書は個人ファイルに保管し、変更があった場合は申し送りなどで職員が情報共有し、服薬時は二重チェックを行い飲み込み確認まで行っている。又、服薬後の飲み忘れの確認も行っている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝いなど日々の生活に張り合いを持っていただき、毎日レクリエーションを実施し楽しい時間を過ごしていただいたり、買い物支援をしたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は毎日散歩の支援をしている。又、保育園の発表会、小学校の運動会、パークゴルフ大会や盆踊りなどの外出行事などを楽しんでいただいている。今年度は家族も参加し動物園にも行きました。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に本人、家族に説明し事故のないように必要時以外は金庫に保管としている。使用する際は見守りしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望に応じて電話の取次ぎや手紙のやりとりができるように支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室と脱衣所は入浴直後も温度差がないように配慮し、居間や廊下なども明るさや清潔保持を保つようにしている。壁には季節感を感じられるように装飾したり、花なども定期的に飾っている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では気の合う入居者同士が会話などを話せるように座席の位置などを考慮して配慮している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には馴染みのタンスや鏡台、装飾品を持参していただき心地良い居室となるようにご家族の方にお話して協力していただいている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時計やカレンダーを目につきやすい場所へ設置し、廊下やトイレ、浴室には手摺を設置しその方の安全かつ自立した生活が送れるようにしえんしている。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	定期的に運営推進会議を開催しているが、毎回、出席者が同じ方になってしまい、曜日を変更してもなかなか改善にいたっていない。今年度は外部の方にお話をさせていただいているが、家族の方は同じ方の出席になっている。	一度も参加したことのない家族に参加していただく。	文書案内だけではなく、口頭での案内や出席の確認の連絡をいれるなどをする。又、都合のいい日程を確認するなどしていく。	6カ月
2	5	運営推進会議の案内はしていたが、開催後の報告ができていなかった。	毎月、報告することができる。	毎月1日に入居状況報告をしているので、あわせて運営推進会議の報告もする。	1カ月
3	13	年間の計画で社内研修の取り組みをしていたが、できない月があった。又、社外の研修への参加案内はしていたがあまり参加できなかった。	毎月、社内研修をすることができる。社外研修へも数ヶ月に一度は研修参加することができる。	積極的に研修会の案内をし、職員に声かけをしていく。	1年
4	34	入社1.2年の職員のAEDの使用方法などの指導をうけていない者がいる。	職員全員が初期対応やAEDの使用方法についての指導を受けることができる。	広報などを活用し、講習会への参加を促したり、非難訓練時などに消防の方に研修をしていただくように相談する。	6カ月
5	35	避難訓練は行っているが地震や、水害の設定をした訓練をしていない。	地震、水害についての訓練をおこなうことができる。	年2回以上の自主避難訓練をおこない地震や水害が起きたときの対応をするようにする。	1年

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。